

4

Annual Report 2011

委員会

委員会組織図

活動報告

病院機能向上推進室会議

褥瘡対策・栄養管理委員会

防火管理委員会

クリニカルパス委員会

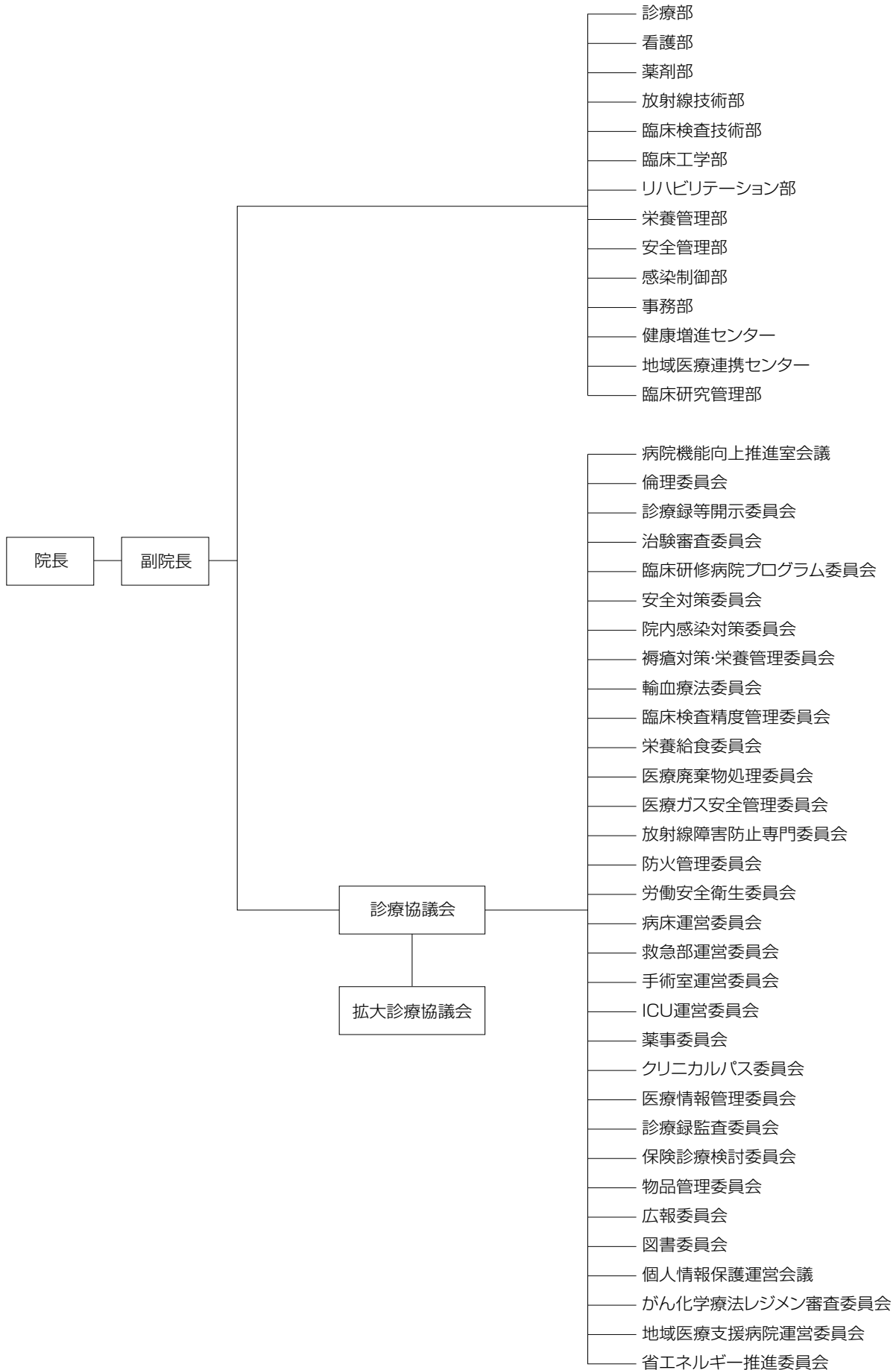
広報委員会

がん化学療法レジメン審査委員会

省エネルギー推進委員会

委員会組織図

2011年3月31日現在



病院機能向上推進室会議

リーフレット作成

患者様やそのご家族様からいただく各部署・部門に対する『よくある質問』について、部署・部門・内容ごとにまとめたものを『病院リーフレット』として作成し、玄関ロビーに設置しています。27種類のリーフレットがあり、皆様にご活用いただいています。



「禁煙看護外来」のリーフレット

担当部署	パンフレット名	2011年度配布実績
看護部	脳卒中看護外来	新規
	下肢静脈看護外来	105
	禁煙看護外来	70
	睡眠時無呼吸症候群について	55
	生活習慣病看護外来	75
	皮膚ケアナースについて	50
	感染管理外来	45
	説明支援ナースについて	55
	らくらく介護について	55
	がん看護外来	50
	乳腺支援ナースについて	15
	NSTについて	35
	インターフェロン看護外来	30
	尿失禁看護外来	40
	緩和ケアについて	0
	治験について	35
地域医療連携センター	メディカルネット99について	35
	ホームドクターについて	35
	医療福祉相談室のご案内	0
放射線技術部	CT検査案内	70
臨床検査技術部	睡眠時無呼吸症候群について	90
	検査相談室のご案内	40
	自己血輸血(貯血式)について	30
	病理診断ってなあに?	15
栄養管理部	健康レシピ～メタボリックシンドローム対策～	75
医療情報課	高額療養費のしくみ	530
	高額療養費のしくみ(現物給付)	450
	入院医療費の計算方法(DPC)の仕組み	215
合計		2,300

TABLE FOR TWO

TABLE FOR TWO（以下 TFT）とは、2007年に東京ではじまり、企業などに広まった開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病解消に同時に取り組む、日本の社会貢献運動です。

当院では、TFT活動を新聞記事で知ったリハビリテーション部・小川弘孝係長が2008年4月に提案し、10月20日から活動を開始しました。

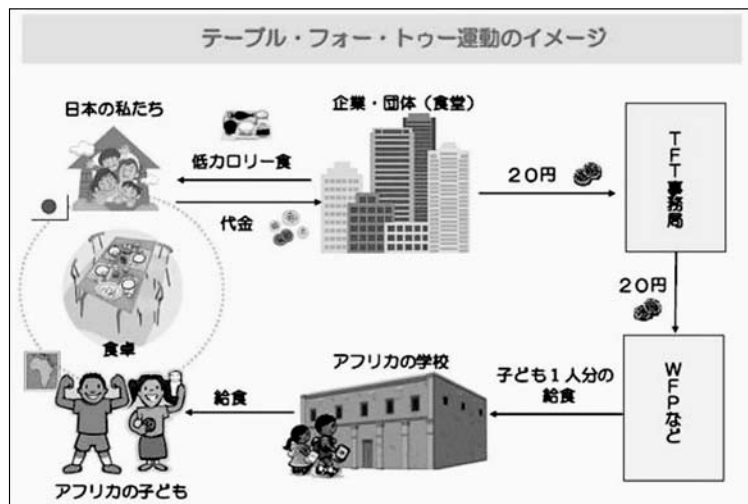
（株）サンマーチの協力のもと、院内の食堂で低カロリーの定食「TFTランチ」を1日30食限定で販売し、売上のうち1食あたり20円がWFPなどを通じてアフリカの国々へ寄付されます。20円はアフリカ諸国での学校給食費1回分に相当する金額で、TFT事務局が国内で同様の取り組みを行っている約50団体から寄付金を受け取り、ウガンダ・ルワンダ・マラウイなどの7カ国に送金しております。学校給食が始まった小学校では、児童の基礎体力と学力が向上する成果がみられると報告されています。

2012年3月までに27,438食（総額548,760円）をプレゼントすることができました。

T TABLE FOR TWO



TFT活動1周年を記念して支援国の給食を再現し提供された「ポシヨ」



広報誌発行

病院機能向上推進室会議の取り組みを職員に周知するため、院内広報誌「機能向上つうしん」を年4回発行しています。



褥瘡対策・栄養管理委員会

褥瘡対策

皮膚科医師と法人内皮膚ケア認定看護師を中心に、各部署リンクナースを設置して褥瘡発生予防に取り組みました。

2009年1月より褥瘡回診を開始し、2年目にあたる2011年度は以下の2点を目標に活動しました。

- ・褥瘡発生報告が正しくできる。
- ・DESIGN-Rの活用方法が理解できる。

①褥瘡回診：毎週第1・3・火曜日

皮膚科医師、法人内皮膚ケア認定看護師2名、次長1名

新患 35名

再診 72名

②皮膚ケアナースラウンド：毎週第2・4火曜日

③学会活動

2011年5月 日本褥瘡学会九州地方会 IN 福岡 発表

講演演題名 「法人内認定皮膚ケアナースの今後の課題」

④CSR：安全管理会議

2011年度 CSRの中で、「看護の質を向上させる目的」で「褥瘡に関わる看護」があげられ、白十字会の全病院・施設が統一した褥瘡管理が行えるように取り組みました。

- ・白十字全体会議 4回/年
- ・佐世保地区会議 9回/年 実施

⑤評価：褥瘡回診は定着し、DESIGN-Rの理解、処置方法も少しずつ浸透しています。

当院はI度の発生報告が少なく、推定率が2.4%と全国平均の1.3%よりも高く、また有病率も全国平均より高いことが判明しました。前年度より褥瘡回診の共有ができ、少しずつではありますが褥瘡に対する意識が高まってきたと感じます。

栄養管理

①NSTカンファランス・回診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	2	2	1	2	0	1	0	1	0	3	2	4	18
回診数	2	5	3	4	4	2	0	1	3	5	4	19	52
栄養士・ 看護師による 介入数	0	2	14	9	11	17	8	11	24	20	14	30	160
PEG増設 介入数	2	1	3	1	3	2	2	1	2	2	2	0	21

②栄養法内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	食数 (食)	8439	8713	8050	8628	8973	8452	7717	7717	9023	8412	8558	8765
	割合 (%)	37	38	37	39	38	39	36	36	40	38	38	37
特別食	食数 (食)	8827	8767	8374	8237	8507	7939	8588	7983	8491	8469	8780	8983
	割合 (%)	39	38	38	37	36	37	40	39	38	39	39	38
経管食	食数 (食)	817	831	883	978	1014	683	584	703	941	706	769	1063
	割合 (%)	4	4	4	4	4	3	3	3	4	3	3	4
輸液 のみ	食数 (食)	2963	2834	2836	2898	3182	3012	3017	2535	2541	2962	3112	3364
	割合 (%)	13	12	13	13	14	14	14	12	11	14	14	14
その他	食数 (食)	1602	1590	1568	1534	1734	1332	1388	1645	1577	1353	1369	1472
	割合 (%)	7	8	8	7	8	7	7	9	7	6	6	7

③NST意識調査実施(アンケート)

2012年3月 実施

対象：医師、看護師

④県北NST研究会

2011年 5月 参加

2011年11月 参加

防火管理委員会

消防防災訓練の必要性

①消防法上における義務

1. 「防火対象物」に指定されているので、下記義務がある。
 - (1) 防火訓練を年2回以上行うこと。⇒病棟消防訓練
 - (2) 防火対象物点検結果報告書を毎年提出すること。(特例認定制度により3年に一度)
2. 「防災管理対象物」に指定されているので、下記義務がある。
 - (1) 防災訓練を年1回以上行うこと。⇒地震避難訓練
 - (2) 防災管理対象物点検結果報告書を毎年提出すること。

②病院機能評価 (Ver.6.0) の評価項目

- 6.6 病院の危機管理への適切な対応
 - 6.6.1.2 大規模災害発生時の対応体制が整備されている⇒大規模災害訓練 (受入訓練)

消防訓練実績

- 2011年 6月16日 4階病棟消防訓練
2011年 9月12日 第7回大規模災害訓練 (受入訓練)
2011年 11月17日 5階病棟消防訓練
2012年 3月15日 地震避難訓練



病棟消防訓練



地震避難訓練

クリニカルパス委員会

目的

医療全般を標準化したクリニカルパスを運用し、医療の質の保証と患者様の安全の確保を目的とする

活動実績

ICU・透析看護課	開心術パス作成。
3階西病棟	パスの見直し。
3階東病棟	血管造影パスに取り組んだが稼働までは至らなかった。4月完成を目標に進めていく。脳卒中連携パスは75件。
4階西病棟	ストリッピングパス、開心術パスの患者用を作成。コメディカルとの連携が図れなかったので今後の課題とする。
5階西病棟・DM・RAセンター	小児科のパスおよびアウトカムの見直し実施。 インスリン導入パスを進めていく。誤嚥性肺炎パスを作成し4件稼働した。すべての病棟で使用できるパスなので、稼働が増えたらアンケート調査し評価する。 腎症パスの見直し。
4階東病棟・消化器内視鏡センター	パスマニュアルの見直し。
薬剤部	薬剤指導が組み込めるパスがないか検討。新規の働きかけを行っていく。
医療情報課	誤嚥性肺炎パスのDPC・出来高比較でパス作成への支援。 パス大会では原価計算についての講演を実施。 11月にEMR術後入院パスの原価計算報告。
栄養管理部	パスに組み込んである栄養指導実施。
臨床検査技術部	若い職員を対象とした研修会の実施。
システム開発室	委員会への参加、大会の準備手伝いなどを実施。
地域医療連携センター	委員会への参加、大会の準備手伝いなどを実施。

8月 院内パス大会

- ・『クリニカルパスと原価計算』経営企画統括本部 濱田副主任
- ・『原価計算を用いたクリニカルパス』医療情報課 松田
- ・『開心術パスを見直して』ICU・透析看護課

2011年度に承認されたパス ※件数は作成から2012年3月末までの稼働件数

- ・5月 気管支鏡パス（5階西病棟／呼吸器内科）43件
- ・8月 開心術パス（ICU・透析看護課／心臓血管外科）23件
- ・1月 誤嚥性肺炎パス（5階西病棟／呼吸器内科）4件

学会・研修参加状況

- ・6月（日本医療マネジメント学会／京都）5階西病棟・DM・RAセンター2例、医療情報課が1例発表
- ・10月（医療マネジメント学会地方会／大分）委員2名参加（4階東病棟：井手、4階西病棟：久保田）
- ・12月（クリニカルパス学会／東京）ICU・透析看護課から1例、3階東病棟委員2名は参加。

審議された内容

- ・6月：パス承認と監査方法について
稼働していないパスをどうするか。→電子カルテコア委員会との調整を含め、慎重に検討。
- ・8月：パス内の点滴・内服が消えてしまう事象について→パス作成の権限確認をしたが問題なし。
(削除しない限りは消えないので操作に注意すること。)

広報委員会

活動内容

広報委員会は、各部署から集まった委員あわせて15名で活動しております。委員は媒体ごとに担当に分かれており、職員むけ広報誌『SCRUM（スクラム）』の編集をはじめ、院外広報誌『はばたき』の編集、病院ホームページの作成と運営管理、1階会計前待合のメディウインドウの運営管理、1階エレベーター前の掲示板の運営管理など、それぞれの活動にあたっています。

2011年度は、『SCRUM』『はばたき』ともに季刊とし、年に4回発行しましたが、最も力を注いだのはホームページのリニューアル作業です。いくなれば経年劣化を起こしていたこれまでの病院ホームページを、見やすく、使いやすいものに変えるため、ほぼ1年をかけて見直し、2012年の4月1日に刷新することができました。

さらに2012年度からは、これまで植木院長が直接手がけられていた「病院年報」編集や、病院パンフレットのリニューアルも検討しております。

様々なメディアが発達した情報化の時代、病院が今何をしているのか、何をしようとしているのかを、地域の皆様・職員を含め、あらゆるステークホルダーに発信し、お伝えすることは大変重要なことだと考え、委員会活動に取り組んでいます。

病院ホームページ



院内広報誌『SCRUM』



院外広報誌『はばたき』



がん化学療法レジメン審査委員会

目的

抗癌剤標準治療計画の妥当性を保障する

活動内容

1. レジメンの新規登録に関すること。
2. レジメンの変更・削除に関すること。
3. 定期的なレジメン使用状況の調査に関すること。
4. その他

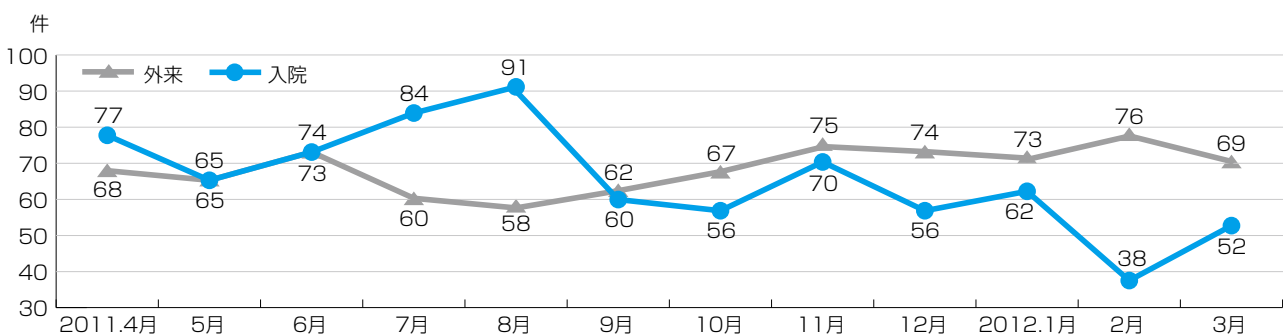
新規レジメン登録件数

当該期間における新規登録レジメンは13件であった。

決定事項

- ①抗癌剤血管外漏出時フローチャートについて
- ②夜間の抗癌剤漏出時の対応
- ③法人内がん化学療法看護認定看護師講習開始
- ④制吐剤グラニセトロン注3mgから1mg製剤への変更について
- ⑤システム機能追加のお知らせ（化学療法スケジュール表示）
- ⑥新規登録された抗癌剤内服薬説明書
- ⑦化学療法に対する同意書の運用
- ⑧白十字病院薬剤部とのがん化学療法担当者TV会議報告
- ⑨外来化学療法室への救急薬セット配置
- ⑩PTX過敏症予防薬ザンタック注からファモチジン注への変更について
- ⑪カルボプラチン点滴静注液450mg製剤の採用について
- ⑫化学療法承諾書の運用開始
- ⑬CDDP前負荷の看護師穿刺について

化学療法実施件数



省エネルギー推進委員会

背景

本委員会は2011年4月に設置され、当施設の省エネルギー推進の実現に必要な提案、広報、調査研究に積極的に取り組むために活動している。

2011年度は下表の通り、委員会を開催している。

	開催月日	委員会 内容
1回	2011年 4月7日	委員会設置の協議、エネルギー使用状況の報告
2回	2011年 5月10日	各部門間の省エネ対策アイデア報告
3回	2011年 12月5日	来年度エネルギー供給状況の報告 省エネ取組みの報告

目的

- ①改正省エネルギー法により当病院が指定工場となるため、本委員会の設置が法的に義務化
- ②エネルギーの使用状況の報告、年1%の削減義務などの実施を円滑に行うため
- ③省エネ広報によるエネルギーコスト削減の取組みのため

省エネ実施取組み事項

本委員会で決定、実施した省エネへの取組み事項で、今年度は照明の間引きなど職員専用エリアだけではなく、患者様にご利用になる外来エリアにまでエリアを広げて実施したことが大きなことである。

「患者様にご迷惑をかけない範囲で取組んでいこう」ということでスタートしたが、今のところ大きな問題は発生しておらず、少しずつエリアを広げ、また広報を行うことで理解が進むように努力していくべきだと結論付けた。

- (1) 照明の間引き (2) エアコンの適正な温度調整 (3) パソコンの省エネ機能設定
- (4) 機材の電源オン・オフの徹底 (5) 例年よりも早いクールビズ導入 (6) センサー照明の利用
- (7) LED照明の導入

エネルギー消費状況

前年度に比べ原油換算値で3.1%のエネルギー削減を達成した。

特に電気消費が抑えられたのが大きかった。しかし冷夏だったことを考慮に入れると、まだまだ省エネできる分野は大きいものと思われる。

1年の活動を振り返って

発足初めての1年だったために、運営や活動内容など手探りな部分が多く、未熟さが出てしまい、積極的な省エネ活動が出来なかったことが反省点である。

今後は省エネの広報活動など省エネを訴える活動を増やし、意識改革を図るような活動を計画していかなければならないと考えているところである。また、新しい技術などを積極的に採用し、その成果をわかりやすく広報していく取組みも必要だと考えている。

